

点訳通信

32号

盲人情報文化センター 点字製作係
550-0002 大阪市西区江戸堀 1-13-2
06-441-0015 FAX 06-441-0039

私の点訳ライフ

眠っていたパソコン

勝間和枝

点訳サークルでボチボチと点訳をしていた私は、点・点・点と打っていくのが大好きでした。が、時代と共に点訳の技術が進歩し、パソコンなるもので点訳ができると知った時は、諦めてしまいました。私は大の機械オンチだからです。でも、「パソコンは簡単に覚えられるよ」という先輩の言葉に励まされて、五年前に決心をし、私たちにとっては高価な買い物だったノートパソコンを、主人が買ってくれました。ところが、それからいろいろな家庭状況の変化が続き、点訳することも御無沙汰になり、パソコンは眠ったままになりました。（他の使い方もわからないので！）

五年間、主人からは「パソコンは？」と言われ続けた日々でしたが、ここようやく講習を受けることができ、危なっかしい私でも最後まで教えていただいたおかげで、パソコン点訳が始まりました。

ようやく眠っていたパソコンも使えるようになり、どんなにパソコンもうれしいことかと思いますが、一番、「やれやれ」と思っているのは主人ではないかと思えます。

自分のペースで、息の長い活動を

河野さちえ

点訳ボランティアに4月から加えていただくことになりました。よろしくお願いします。
神戸市北区藤原台から三田経由で通って来ています。大阪までもっと速く、安く、往復
できればと思うのですが、自分のペースをつくって、息の長い活動をしていきたいです。

2年前から始めたピアノと山野草ウォッチング（月1回現地講座に参加している某新聞
社主催の会）が趣味です。どれもまだかじった程度ですが、長く続けていければと思って
います。

点訳は創造的

坂和員子

講習を終え、未熟ながら本の点訳を始めています。点訳本との出会いは弱視の長男がま
だ幼稚園児の頃ですから、もう10年以上になります。この間何となく、点訳というのは
とてもその作業に時間がかかり、また、ただ墨字を点字にする（だけの）ものなんだと思
ってきました。

が、パソコンを使えば作業時間は大幅に短縮することができ、そして先輩の方々が色ん
な工夫を自分なりに凝らして点訳されているのを知り、これはなかなか創造的なことなん
だと、この頃感じています。

それに、点訳ボランティアで何かちょっとでも社会のお役に……なんて考えたこともあ
りましたが、大きな間違いであることに最近気がつきました。これは私の健康の素、元氣
の素なのです。

ボチボチやっていこうと思っていますので、よろしくお願いします。

人生のジレンマを救ってくれた点字

笹川雅子

ある時、ふと思ったのです。人生の約半分を生きてきて（私は長生きするつもりです）、

私はこのまま何もしないで過ごしていった方がいいのだろうか、私の夢って、やりたいことって一体何だったのだろうか。そんな私を、ジレンマから救ってくれたのが点字でした。

今は、いろいろな知らなかったことを知り、覚えていくのが楽しくて仕方ありません。いくつになっても勉強というのは大切なことだなと思いました。もちろん、どの道にも共通して言えることですが、点訳というものも奥は深く道は遙かかなたですが、この出会いを大切に、マイペースではありますが息長くずっと続けていきたいなと思っています。この春我が家に初めてお目見えしたパソコンを3人の子供達と取り合いしつつ（子供はゲーム専門ですが）、使いこなせる日を目指して日々努力の毎日です。

先輩の皆様方、末永くよろしくお願い致します。

私と点字

吉田史

初めまして。この3月に何とか点訳講習会を終えることができた吉田です。私が点字に興味を持ったのは今から4年前、司書を目指してこれまた講習会に参加した時に、講師の方から点訳の話聞いてからでした。その後母校の大学図書館で楽しく働いていましたが、結婚を機に仕事を辞めて暇な毎日過ごすなか、今回このような機会に恵まれて、新しく点字というものを始めることになりました。最初はもし講習会に参加できても、後期の前のテストで落ちるだろうからパソコンの必要はないだろうと安易な気持ちでしたが……。やってみるとこれが難しく根気のいる作業で大変びっくり致しました。今はまだパソコンにも慣れずおっかなびっくり、打っては間違えとちまちま入力していますが、手がけている本がいつか誰かに読まれる日を楽しみにしながらがんばっています。超初心者のため色々ご迷惑をかけることも多いと思いますが、これからもよろしくお願い申し上げます。



点訳技術講習会修了生の皆さん
(デジタルカメラで撮影)

西林洋二さんをお迎えして

三木清子

4月25日(土)午後、6階ボランティアルームにて、西林さんのお話をお聞きする会が開かれました。参加者は14名、和やかな勉強会でした。

西林さんは1942年の生まれ、明るくさわやかな印象。松下冷機(株)設計部勤務の十数年前、網膜変性症で失明され、日本ライトハウス(放出)で生活訓練の後、市立盲学校(理療科)に学ばれ、三療(鍼灸・マッサージ)の資格を取得。ヘルスキーパー(企業内での社員対象の理療士)として職場復帰されています。お話をお伺いする中で、障害を持たれてからの会社のサポートがとても素晴らしく感じられました。

ヘルスキーパーは、全国で上場企業40社に200余名の方が、大阪では約40名が勤務。しかし雇用の面では障害者に対する理解は十分でない反面、日常生活の周辺では増えてきていますとのお話でした(ここで自社製品のコマーシャル)。

「30才を過ぎてからの触読は難しいとの通説ですが?」の質問に「最初は1ページに1時間、意味は全くわからない。慣れること、月日を重ねることで、今では2,3分で読めるようになりました。」に深い感動を覚えます。

「練習には興味ある分野のもの(笑い)を選ぶのが上達への近道と、ライトハウスでも指導しています」との森さんのお言葉も加わり、西林さんご自身はドキュメンタリーが好みとのことでしたが……。

参加者のリクエストで早速「『てんやく広場』ベスト30」のリストでそのお手並みを「拝聴」させていただきました。

しかし最近では、中途失明者の中には点字を読まない方も増えてきており、西林さんもパソコン点訳されたデータを音声で聞かれることが多く、「小説などを機械音でお聞きになって違和感はない?」の質問では、音声合成機の向上に伴い、さほど抵抗感はないとのお答えでした。職業訓練所での将来の進路を決めるに当たり、コンピュータプログラマーへの道も考えられ、パソコンを学ばれたことが、今の生活に大層役立ち、生活情報収集に数多くのソフトを活用されているのには驚きました。しかし当センターでの対面朗読やテープ又は社内の看護婦さんに点字を覚えてもらったり、加えて奥様のご協力のもと、時に応じて対処されている様子がかがえました。盲導犬の利用も、動物は好きでそのメリットには理解があるのだが、「犬を連れて飲み屋に入れないので飼ってはいない」との楽しいお話も。

その他、漢点字について、同音異義語の注記の必要性について、コンピュータ点訳も変化してきていることなど、多くの話題がありました。

最近の三療界の話題として、業界の働きかけもあり、平成12年施行の介護保険に向け

て、ケアマネジャー（介護支援専門員）の資格所得へ視覚障害者の受験が可能となり、そのテキスト約千ページ（全24巻）が点訳され、録音テープも5月初めに発売されるとのニュースが語られ、新たな社会参加への行政の理解が示された話題として、良い結びとなりました。

読み方調べ

一般用語 30万件 人名 28万件

読み方調べ辞書が大きく成長しました。一般用語の部では、『辞書にない「あて字」の辞典』がすべて入りました。

例えば下記の漢字はどう読みますか？

外観、硝子玉、日往復、神速い、注文王、変色蜥蜴、狂人水

外観 みえ 饗庭篁村『当世商人気質』、後藤宙外『ありすのすさび』、北原武夫『マタイ伝』

硝子玉 ビーだま 加能作次郎『乳に匂い』

日往復 ひがえり 国木田独歩『巡査』

神速い すばしこい 夢野久作『犬神博士』

注文王 ディレクター 山口洋子『薄暮ゲーム』

変色蜥蜴 カメレオン 徳富蘆花『想出の記』

狂人水 さけ 林芙美子『放浪記』

それぞれ、上記のように読ませているようです。見ればなるほどと思いますが、ルビがなければ正しく読むことは出来ません。

その他俳句に関する項目も強化されました。

人名の部では、現代人名が格段と増え、より使いやすいものとなりました。中でも、タレント、歌手、俳優などは、かなりの精度でヒットします。

使い方はいたって簡単です。ぜひご利用下さい。使い方のわからない場合はお尋ね下さい。親切丁寧にお教えいたします。

グループ M A Z E^{メ イ ス}の自己紹介

私達のグループMAZE（メイズ）は、「点訳で触図化が困難な原本の図形などを、文章（ことば）で点訳する技術」の向上を目的とした勉強会です。スタートは、1995年10月～12月に毎日新聞大阪社会事業団主催・盲人情報文化センター（以下、情文と略称）後援の専門図書点訳講習会、「図」点訳コースが実施されましたが、このときの受講修了者が前述の目的で96年1月にグループを結成したのが始まりです。

活動の状況を申し上げますと、メンバーは現在、総員7名（女5，男2）、勿論女性優位のグループです。各メンバーは大阪府下5名、兵庫県下2名です。それぞれ地元点訳グループからの参加者によって構成されています。活動場所は情文の一室を借り、定例会は2ヶ月に1回で、必要があれば随時会合を持つことができます。勉強のテーマは例会で選び、そのテーマについて予め各自の点訳を全員に配送し、次の例会で相互に検討・質疑など自由に意見の交換を行います。出身母体の異なるメンバーの意見は多彩でかつ貪欲なまでの研究熱心にはお互いにあきればかりです。この雰囲気は何時までも忘れずに活動を続けたいのが私達の念願です。とは云っても、この勉強会では私達は晴眼者であることや、ボランティアとしての能力に限界があることも事実です。このことから、私達は情文職員の森泰雄さんをお願いして、例会でのテーマの検討意見や点訳内容について貴重なご助言を頂いています。

さて、MAZE（メイズ）の由来ですが、メイズは「迷う図」であり、又mazeは「迷路」の意味があります。MAZEは「図」を文章化するむずかしさとの取り組み、迷走中の苦しみと楽しみ、そして達成感の喜びをイメージし、勉強会に寄せるメンバーの心意気と夢を表現しているつもりです。

< 「大阪市の地下鉄・ニュートラム」点字版の作成を終えて >

MAZEの活動を始めて一年、今までの演習のみでなく、視覚障害者に日常使用していただけるものにと、「大阪市の地下鉄・ニュートラム」路線図の文章化に着手することにしました。最初はメンバーが自由な発想で点訳したものを持ち寄り、まず地下鉄路線図の概要部分と各路線ごとの駅名などの詳細部分に分けてスタートし、次々と問題点と対処しながら作業を進めました。その中で特に悩んだところを振り返ってみますと、

- 1．路線・駅名の書き順：点訳の手順にのっとり北から南へ、西から東へとしました。
- 2．正しい駅名の読み方：最新版の大阪市街地図で調べましたが、問題はマスアケでした。ふたつの要素名を持つ駅や、東西南北がつく場合、例えば「野田阪神」「南森町」などがそれです。

大阪駅時刻表を点訳して

今里みづ代

十何年の点訳活動の中で、はじめて時刻表を点訳しました。ポケットサイズの時刻表を手渡されたときは、順番に点訳していけばよいのだろうと簡単に考えていました。

いざ点訳しようと思ったら、まず時刻表の真上に書いてある行き先の文字が見えない、備考欄の文字も小さすぎて読みづらい。

拡大コピーをとると、あたりまえのことだが、赤字（快速、新快速）も青字（各駅停車）も、すべて同じ黒字になってしまう。本来の赤字の箇所に、赤鉛筆で印をつけて区別する。

次に備考欄が煩雑すぎて、どう整理してよいのか、しばし迷う。

結局、校正者と相談し、以下のように点訳することにしました。

行き先は2マス又は3マスで略記し、特に記してある場合ののりばと共に丸カッコを使う。（その他ののりばは備考欄と一緒に記す。）

快速と新快速はカギカッコでくくり、「カイ」又は「シン」とする。快速と各駅停車のみの宝塚線等は、快速をあらわす記号として、時刻をカギカッコでくくってしまい、そのあとに行き先を記す。《ex. 「40」（福）》

関空特快ウイングややまとじライナー等は、第2カギを使い、それぞれを略記してくくる。

備考欄の快速、新快速、ライナー等の停車駅はすべて省略する。

時刻表を点訳して思ったことですが、蔵書を点訳することは勿論大切なことですが、私が点訳活動をはじめた頃にはなかった蔵書以外のリクエストが最近非常に増えていて、それも急いで点訳する必要があるものが増えており、私自身も含めて、それに答えられるよう、点訳ボランティアの意識をもっと柔軟に変えていかねばと痛切に思いました。